

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。


チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)	有限会社 友星メディカル グループホーム唐湊の家 グループホーム 唐湊の家 1階
所在地 (県・市町村名)	鹿児島県鹿児島市唐湊三丁目2-4
記入者名 (管理者)	久保 由見子
記入日	平成 21年 10 月 1 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	地域密着型サービスの意義を職員全員で確認し、理念の中に「地域とのかかわりを大切にし、交流を深めていきましょう」を掲げている。	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	朝の申し送り時、職員一同で「理念」を唱和し、ミーティング時など「理念」について確認し合える場をもうけ、意見交換を行っている。又、年1回理念について振り返る機会を設け、理念を意識シケアを行うように努めている。	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にされた理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	「理念」は契約書の表紙等に示している。またご家族や来訪者がわかりやすいように受付や各階入り口に掲示しており運営推進会議においても話をしたり理念についてのアンケート結果を報告したりしている。	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	近所に住む学生や主婦の方と継続的にボランティアでの交流を行っている。また買い物等の外出時挨拶を交わしたり話をしたりしている。老人会終了後など入居者の友人の方々が立ち寄って下さる。	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	地域のリサイクル活動・夏祭りやおはら祭りなど利用者とともに町内の一員として参加している。新年会や敬老会など事業所の行事は公民館を利用し町内会長・民生委員をはじめ地域の方々や近隣の学生も多数参加していただいている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域行事やリサイクル活動に積極的に参加する機会を通じて「唐湊の家」の存在を認識していただき、相談や質問を受ける機会が増えてきている。運営推進会議においても常に事業所として出来る事は無いかを町内会長や民生委員に提議・検討している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ミーティング時などに評価の意義を伝え毎年の自己評価を全職員で取り組むようにしている。外部評価の結果も全職員で検討し質の向上に努めている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方の参加・協力が積極的であり、町内会の行事予定をいただいたりして地域との交流や事業所として地域に貢献出来る事はないかなど提案・意見交換を行っている。また、利用者の状況や活動報告・苦情相談・事故報告・評価の報告なども合わせて行っている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	年に1回～2回相談員の受け入れをしている。又、入居待機者の報告・生活保護課への相談・報告、介護保険課への事故報告を行っている		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	内部研修にて職員の理解を深めるようにしている。現在、地域福祉権利擁護事業を活用している入居者もおられる。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング時に日々のケアについて振り返り虐待について考える機会を設けている。外部への研修参加や勉強会を通じて虐待の意味を理解し防止に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修計画・年間研修計画を立て資質の向上に努めている。外部研修へ参加した職員は全体ミーティングで報告し全職員が共有できるようにしている。内部研修については担当を振り分け個々で学習し発表することにより、より理解が出来るようにしている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は同業者が集まる管理者会議へ参加し、交流・意見交換を行っている。職員も入居者と共に他のGHと合同で畑作りをしたり、行事に参加することで交流を図っている。また、2～3ヶ月出向という形で他事業所への研修をとり入れ質の向上、相互関係性の継続がスムーズに行えるようにしている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	日常的にストレスや悩みを把握するよう努めている。個別に相談に応じ速やかに糸口を探り軽減できるよう努力している。入居者と距離を置いてゆっくり休憩のとれる畳の部屋を確保している。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は管理者と連絡・相談・報告がいつでも気軽に出来る関係性が出来ている。管理者は職員が資格取得に向けてのサポートを行い、又、資格を活かせる環境づくりに努めている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	サービス利用開始前までに必ず本人と直接お会いして話をし、本人がおかれている状況や不安を受け止め、又ご本人に見学していただき安心できるように努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人がおかれている状況や経緯を理解し、家族も含め、何を求めているかを受け止め、事業所の運営理念やサービスを実際に見ていただき、信頼関係を築く努力をしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、ご家族の現況・想いを伺い、早急な対応が必要と思われる場合は、他事業所への紹介をしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	最初は職員が出向き本人と話しをし不安や状況を受け止め関係性の構築をはかる。入居前にご本人にも出来る限りご家族と一緒に見学にきていただきゆっくりお茶を飲んだりしながら雰囲気を分かっていたいただき納得した上での入所を心がけている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者が人生の先輩であることを理解しており、行事計画や献立作成等一緒に考える様に努めている。昔ながらのもの、調理方法・ならわし等利用者の方に教えていただきながら、共に作業を行ったりしている。特に畑作りなどは、互いに協力し合い収穫までを楽しんでいる。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	日々の生活ぶりや身体状況を細かく報告することに努め、過去の情報なども聞きながら情報を共有し、一緒に本人を支えられるよう協力している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	正月やお盆には外出や外泊の声をかけ家族と一緒に過ごすことを勧めたり行事と一緒に参加していただけるように努力している。また遠方のご家族や面会が遠のいている方には電話で近況報告をしたり、電話で本人と話が出来るように支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所の友人の方が老人会の帰りに寄ってくださったり、古い友人が家族同様に面会に来てくださる。又近所のスーパーへ出かけたりして顔なじみの方に会える機会を作るように努めている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	お茶や食事は出来るだけ職員も一緒に摂る様にし、コミュニケーションが上手くいかない時は職員が間に入り支援している。利用者の関係性に配慮しながら席替えも試みている。家事などの出来ることをしていただくことで、「お願い」「いいよ」「ありがとう」の言葉を交わし、関係性の構築ができています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	長期療養のため入院となり退去された方のところへお見舞いに行ったり、退院後の他施設を紹介するなどの支援をし出来るだけ関係を絶ちきらないよう努力している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日々の生活の中で、一人ひとりと向き合う事に努め、「したい事」「して欲しい事」を聴き出す努力をし、実行へつないでいる。意思の疎通が困難な方は、個々の日常生活の中で行動・表情などをよく観察し見出すことに努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用時に、アセスメントシートを利用したりしながら家族やご本人から出来るだけ多くの情報を聴き取る様にしている。又、入居後も会話の中から少しずつでも情報を聴き出し、個人を尊重し出来ることやしたいことを支援できるように努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	職員はケアプラン見直し時や日々の生活の中で生活リズムを把握し、理念に基づいて出来ることを大切にし、また、出来ることを見つけ出し、増やしていける様努力している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	私の姿と気持ちシート・生活リズムパターンシート・24時間生活変化シートなどを用いてアセスメントし、スタッフ全員で、現況や問題・ケアの方法等を話し合っている。又、面会時や現況報告時には家族の要望を聴き、ご本人も含め意見交換を行いその人らしい介護計画を作成できるように努めている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	本人やご家族の要望を聞きながら3ヶ月に一度モニタリングを行い、6ヶ月に一度見直しを行っている。骨折・入院などにより状態や状況の変化がみられる時、要望等の変化がみられる時等、その都度介護計画の見直しを行い現況にあった介護計画になるように努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを作成し食事・水分摂取量などの身体状況や外出の状況や医療関係の(受診)状況把握をしている。介護サービス実施記録に日々の気づき・エピソード等を記録している。また職員は確認するようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院への送迎や付き添い、ドライブや外食など本人やご家族の希望や状況に応じて柔軟に対応している。緊急時はご家族や医療機関との連携を図り、柔軟に対応できるように努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	災害時等は近隣の学生との協力体制が出来ており、担当分遣隊の指導の下消防訓練にも参加いただいている。また公民館の利用や学生・ボランティア等継続的に行っている。また、馴染みの民生委員さんへ足を運んでいただき散髪(カット)をお願いしている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者の状況に応じて訪問リハビリを利用したり、訪問理容もお願いしている。ボランティアセンターを利用しボランティアのお願いやサマーボランティアの受け入れも行っている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加することによって情報交換は出来るようになり、在宅での入居待機者の相談や地域との交流方法についての協力をしている。	○	地域包括センターの職員の異動によって運営推進会議への参加状況に変化がある。積極的に呼びかけを行い関係性の構築を図って行きたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・ご家族の希望によりかかりつけ医を決定している。状況の変化によってかかりつけ医を変更する時はご家族と充分話し合い検討している。状況に応じて受診や送迎の支援も行っており、医療機関との連携を図りながら適切な医療が受けられるように支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	<p>個々に合わせた現実的な方針を家族・医療機関・全職員で繰り返し検討し、職員の質の向上に努め協力医療機関との連携を強化し出来る限り住み慣れた場所で最期を迎えられるよう情報を共有し支援して行きたい。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>個々に合わせた現実的な方針を家族・医療機関・全職員で共有し、状況に応じて繰り返し話す(検討)機会をつくり、支援する環境づくりに努める。職員の質の向上や在宅医療機関との連携の構築を図り、家族や本人の意向が反映できる環境づくりに努める。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシー保護マニュアルに添って個人情報の取り扱いなどミーティングにて再確認しながらプライバシーの保護に努めている。日々のケアや声掛けにも職員間で注意し合いプライバシーを損ねることがないように心がけている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	外出や行事・食事の献立・入浴の希望など出来るだけ本人の希望に添えるよう柔軟に対応している。また希望を言いやすい雰囲気作りに努めている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・就寝時間や朝食・入浴に関しては自由であり、外出や散歩・食事のメニューも個々の状態や想いに配慮し柔軟に対応している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	白髪染めの支援や本人の好みや伝えやすいように馴染みの民生委員さんの訪問理容を利用している。又洋服は自分で選ぶか一緒に選び支援している。洋服や帽子の買物の支援も行っている。	○ 外出や行事(母の日・ひな祭りなど)時、お化粧をする・スカートやワンピースを着るなどを提案し、希望に応じてあらゆる角度から支援して行きたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者や職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜作りや収穫を一緒に楽しみ食事に取り入れている。又献立も一緒に考え下ごしらえや調理・片付けなど個々の力量にあわせて行い職員も一緒に食事を楽しんでいる。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	おやつやジュース・果物などの買物は職員と一緒にしている。皆で梅酒作りをし就寝前に楽しんだりしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	アセスメントシートや身体状況表を利用し個々の排泄パターンを職員は把握し、そぶりや時間をみてトイレへ誘導しスムーズな排泄を支援している。尿取りパッドを使用している。トイレで気持ちよく排泄が出来るように支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの希望に合わせて、曜日や時間を決めずにいつでも(毎日でも)ゆっくり楽しめるように支援している。入浴した日を記録し、お風呂嫌いの方には声掛けの方法や時間を工夫しタイミングを計りながら少なくとも週2階程度は入浴していただくように努めている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	食後などは個々のペースで居室で横になったり、ソファで寛いでおられる。また日中の活動を促し生活リズムを整え自然で快適に入眠出来る様に支援している		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理の下ごしらえ・食器洗い・洗濯物たたみ・掃除など個々の得意分野を発揮して頂いている。職員も一緒に行い感謝の言葉を必ず伝えている。外出や外食(おやつも含む)の希望も出来るだけ添える努力をしている。他のグループホームとの交流も気分転換になっている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の個性や力量に合わせてご家族の協力の下支援を行っている。最近では認知レベルの低下や身体的要因によって、財布は所持しているが、使う機会がなくなっている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くのスーパーへの買物、川沿いの散歩等出来るだけ日々の生活の中で出かける機会を作っている。一人ひとりの希望に添って外食やドライブなども支援し、花見や納涼船など季節を感じられる行事も希望を聞きながら計画に取り入れている。	○	出来る限り希望に応じているが、職員の配置に余裕がなかったり、入居者の身体的な要因によってすぐの対応が出来ないこともある。職員の配置に余裕をもたせいつでも対応できるようにして行きたい。また車椅子でも出来るだけ出かけられるように支援して行きたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	自宅やお墓参りなどの希望は家族と相談しながら協力していただいている。季節に応じた外出や希望を行事計画に取り入れたり個別の対応出来るだけ支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自分で電話をかけられない方へは援助を行い、いつでも自由に電話が使用できるように支援している。また面会が遠のいている時や本人が淋しそうなのぶりがみられる時はこちらから電話をかけはなせる機会を作っている。	○	自分から電話をかけたいといわれる方は一部であり、言動や表情をみながら気持ちを察し支援して行きたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家庭的で明るい雰囲気であることを心がけ、面会時間を定めず気軽にいつでも訪問していただけるようにしている。訪問時は居室でゆっくりお茶や会話を楽しむ方やリビングで皆と一緒に過ごされる方がおられ個々に応じて支援している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロに向けてのマニュアルに添って職員は意識し行動している。また、ミーティングなどで日々のケアを振り返り確認しあっている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけない自由な暮らしを実践している。玄関等にセンサーを設置し出かける様子が見られた時は止めるのではなく後方から見守ったり、一緒に付き添ったり状況に応じて対応している。自由に家庭菜園を見に行ったり玄関先で外の空気を感じられるように、居場所確認や見守りを行い支援している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	キッチンが対面式になっており調理をしながらの見守りが出来る。職員は声を掛け合い連携を取りながら居場所確認や行動の見守りを行っている。記録等も身近で行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	洗剤等は扉の中やカーテンで目隠しをする等の工夫をしており、包丁等はその都度手渡しして使っていただき他は扉の中に片付ける様にしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人ひとりの状態を見て日々のケアの中で確認しあっている。又ヒヤリハットや事故報告を利用して対策検討を行い再発防止に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	職員に応急手当普及員がおりほとんどの職員が普通救命講習を受講し急変や事故において応急手当や初期対応が出来るようにしている。安全対策マニュアルに添って対処できるように勉強会等で訓練・確認を行っている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時等は近隣の学生との協力体制が出来ており、消防署の協力の下、避難訓練を入居者・学生・職員と一緒に昼間・夜間想定で年2回実施している。緊急持ち出し簿の作成や非常用の飲料水・備品の確保も出来ている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	職員は一人ひとりのリスクを把握・共有し家族の面会時や現況報告時に個々の状態を細かく報告しリスクに関して説明するようにしている。		
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェック時顔色や表情にも気を配り些細な体調の変化や異変の早期発見に努めている。食事や水分の摂取量、排便の状態なども毎日記録し状態把握を行っている。申し送りやその記録、受診等の医療関係の記録によって職員が情報を共有できるように支援している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が個々の服薬の種類や作用を把握できるようにファイルを作成し理解し服薬支援を行っている。処方の変更時は必ず申し送りをを行い内容確認やその後の状態確認を行っている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	献立の工夫や水分摂取量の把握、又活動量を増やす努力を行っている。排便の状態を把握し医師と連携を取り、本人の意志も尊重しながら薬の調整等を行っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	職員は口腔ケアの重要性を理解し、毎食後口腔ケアを行う支援をしている。又定期的に歯科受診の支援をしたり、歯科の協力の下、勉強会を入居者も一緒に行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量・水分摂取量を毎日記録し情報を共有している。メニューによつての摂取状態も日々残食を見ながら確認し合い個々の嗜好や摂取量に応じて代替えのものを作ったり、外食にて気分転換を図るなどの工夫をしている。体重測定やBMIのチェックも行い状態を把握している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症に対するマニュアルに沿って予防・対策に努めている。ミーティングや申し送り時においても繰り返しがいい手洗いの励行の声掛けを行い、ドアや手すりの消毒も行っている。また職員・入居者全員インフルエンザの予防接種も行っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒予防の為、外部研修にも職員が参加し他の職員にもミーティング等で伝達を行っている。冷蔵庫や保存庫の点検は頻繁に行っており毎日、買い物へ出掛け新鮮で安全な食材を使用している。又、調理用具や布きん、まな板の消毒も毎日行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関の内外にそれぞれベンチや椅子を置いてあり、ゆっくり出来るスペースの確保が出来ている。ホーム正面の花壇に花を植えたり玄関の入り口に草花などを置くなど誰もが入りやすい雰囲気作りに努めている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の植物を飾り、ホーム内でも季節感を味わえるように工夫している。また、入居者が町内会の夏祭りですくった金魚の水槽を玄関に置き、ゆっくり眺めたり、椅子をなるべく多く置きいつでもゆっくり座れるようにしている。共有部分の飾りつけも利用者と一緒にしている。また台所は対面式になっており料理中の匂いや食器を洗う音を自然に感じている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室や玄関ホール・玄関先にソファや椅子・縁台を置きそれぞれが寛げる場所で自由に過ごしておられる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具を持ち込みご家族の写真・ご家族との写真・手作りのカレンダーを貼ったり置いたりして落ち着いて過ごせるようにしている。又位牌を持ち込んでお茶やお菓子を供えたり手を合わしたりしておられる。TVの好きな方はTVを居室に置きいつでも時間に関係なく見て楽しんでおられる。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	温度計や湿度計を設置しチェックをしながら、入居者にも体感温度を尋ねたりして温度調節を行い空気の入替えもこまめにおこなっている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーになっており、エレベーターも設置している。個々の状態でエレベーターや階段を使用し、自由に1・2階の行き来ができています。廊下や階段・トイレには手すりがあり洗面台も2段階になっておりそれぞれの状態に応じて利用している。浴槽内にも滑り止めマットを使用している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各居室に表札を設置したりトイレは遠いところからもわかるように目印をつけ混乱を防いでいる。又それぞれの不安要因を見つけ出し工夫する努力を全職員で行っている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関や玄関先に椅子や縁台を置き入居者はそれぞれの場所で外の風情を楽しんでいる。又日向ぼっこをしながらお茶を飲んだり家庭菜園の手入れや収穫、花壇の草花の手入れなどを職員と一緒にしている		

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、活き活きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

いつも笑顔で入居者と向き合うことを心がけ、出来ない事は協力し合い、したい事やして欲しいことを実現させる。また体調に気を配りながらできるだけ戸外へ出かけ、レクリエーションを楽しんだんだり季節を感じながら、ホームに閉じこもることなく、地域や家族と共に支え合い楽しんで暮らしている。

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。


チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)	有限会社 友星メディカル グループホーム 唐湊の家 グループホーム 唐湊の家 2F
所在地 (県・市町村名)	鹿児島県鹿児島市唐湊3丁目2番4号
記入者名 (計画作成担当者)	橋口 英子
記入日	平成 21 年 10 月 1 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>		
	地域密着型サービスの意義を職員全員で確認し、理念の中に「地域とのかかわりを大切にし、交流を深めていきましょう」を掲げている。		
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>		
	朝の申し送り時、職員一同で「理念」を唱和し、ミーティング時など「理念」について確認し合える場を設け、意見交換を行っている。又、年1回理念について振り返る機会を設け、理念を意識しケアを行うように努めている。		
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>		
	「理念」は契約書の表紙等に示している。又、家族や来訪者がわかりやすいように受付や各階入り口に掲示しており運営推進会議においても話をしたり理念についてのアンケート結果を報告したりしている。		
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>		
	買い物や散歩時、近隣の方々と気軽に挨拶を交わしている。継続的に近所に住む学生が来られボランティアでの交流を行っている。		
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>		
	地域のリサイクル活動・夏祭りやおはら祭りなど利用者と共に町内の一員として参加している。新年会や敬老会など事業所の行事は公民館を利用し町内会長・民生委員をはじめ地域の方々や近隣の学生も多数参加していただいている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域行事やリサイクル活動に積極的に参加する機会を通じて「唐湊の家」の存在を認識して頂いており、相談や質問を受ける機会が増えてきている。運営推進会議においても常に事業所として出来る事はないかを町内会長や民生委員に提議・検討している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ミーティング時などに評価の意義を伝え毎年の自己評価を全職員で取り組むようにしている。外部評価の結果も全職員で検討し質の向上に努めている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方の参加・協力が積極的であり、町内会の行事予定を頂いたりして地域との交流や事業所として地域に貢献出来る事はないかなど提案・意見交換を行っている。また、利用者の状況や活動報告・苦情相談・事故報告・評価の報告なども合わせて行っている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	年に1回～2回相談員の受け入れをしている。又、入居待機者の報告・生活保護課への相談・報告・介護保険課への事故報告を行っている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	内部研修にて職員の理解を深めるようにしている。現在、地域福祉権利擁護事業を活用している利用者もおられる。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング時に日々のケアについて振り返り虐待について考える機会を設けている。外部の研修への参加や勉強会を通じて虐待の意味を理解し防止に努めている。虐待対応マニュアルも作成し徹底している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居前に利用者本人や家族に直接会い話をし、事業所も見学の上入居を進めるようにしている。契約時は重要事項説明書に基づいて、十分な時間を取り説明している。又、医療連携体制や苦情相談等について詳しく説明をしている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者のしたい事、してほしい事ノートを作成し利用者の立場に立った意見を聴ける、活かせるようにしている。又、介護相談員も派遣して頂き運営の参考になっている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族等の来訪時の際は声をかけ日頃の利用者の状況を報告している。又、心身の状況で変化や問題が起きたら電話で報告、相談をしている。来訪が見えない家族には定期的に電話で報告している。「かわら板」の発行や廊下など写真を掲示したりしている。又、金銭に関しては出納帳を作成し家族に確認してもらいサインを頂いている。職員の異動も随時報告を行っている。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族には来訪時や近況報告時に常に問いかけ意見を引き出す雰囲気作りに努めている。運営推進会議においても家族などに一人ずつ意見を頂くようにしている。又、意見箱の設置や苦情相談窓口も掲示をしている。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>日頃からコミュニケーションを図るように心がけ些細な事でも話せる関係性を心がけている。又、ミーティングや申し送り時には意見を聴くようにし、年1回の個々の反省や抱負などを参考にし運営に反映できるように努めている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>受診支援や行事・外出等利用者本位の暮らしを支援できる人員配置や調整を行っている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>開設当時よりの職員が多く入れ替わりも少ない。退職した元職員がホームに遊びに来て下さり利用者も喜んでおられる。新しい職員が入る場合や異動がある場合きちんと利用者や家族への紹介、挨拶を行っている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修計画・年間研修計画を立て資質の向上に努めている。外部研修へ参加した職員は全体ミーティングで報告し全職員が共有できるようにしている。内部研修についてはテーマ別に担当を振り分け個々で学習し発表することにより、より理解が出来るようにしている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は同業者が集まる管理者会議へ参加し、交流・意見交換を行っている。職員も入居者と共に他のGHと合同で畑作りをしたり、行事に参加することで交流を図っている。又、2～3ヶ月出向という形で他事業所への研修をとり入れ質の向上、相互関係性の継続がスムーズに行えるようにしている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	日常的にストレスや悩みを把握するよう努めている。個別に相談に応じ速やかに糸口を探り軽減できるよう努力している。利用者との距離を置いてゆっくり休憩のとれる畳の部屋を確保している。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は管理者と連携・相談・報告がいつでも気軽に出来る関係性が出来ている。管理者は職員が資格取得に向けてのサポートを行い、資格を活かせる環境づくりに努めている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	サービス利用開始前までに必ず本人と直接お会いして話をし、本人がおかれている状況や不安を受け止め、又、本人に見学していただき安心できるように努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人がおかれている状況や経緯を理解し、家族も含め、何を求めているかを受け止め、事業所の運営理念やサービスを実際に見ていただき、信頼関係を築く努力をしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の現況・思いを伺い、早急な対応が必要と思われる場合は他事業所への紹介をしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス利用する前に本人、家族には見学に来て頂き他の利用者、職員と一緒に飲みながら会話を楽しんだりしホームの雰囲気を分かってもらえるように努めている。又、ホームの生活に馴染めるまで必要ならば家族や本人が信頼している先生に足を運んで頂いたり協力を頂いている。		
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は常に利用者一人ひとりその人らしい尊厳ある姿を大切に、暮らしの中で利用者の方々には得意分野で力を発揮する場面が多くお互いを支えあう関係性が自然に見られている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	日頃の利用者の様子や気づきを伝え家族の思いに寄り添い一緒に考えていける関係性ができている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族背景や生活歴に留意しより良い関係を築いていけるように支援している。又、面会時は居室でお茶を飲んで頂きゆっくり過ごしてもらっている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の古くからの友人や前の病院の先生、看護師さんが面会に来て下さったりしている。買い物も近所のスーパー等へ日常的に出かける努力をしている。又、近所に住む学生の方とも継続的に行き来している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	個別に話をしたり悩みを聴いたりしている。みんなで楽しく過ごす時間や場面作りをするなど利用者同士の関係がうまくいくように職員が間に入り支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	長期療養のため入院となり退去された方のところへお見舞いに行ったり、退院後の他施設を紹介するなどの支援をし出来るだけ関係を絶ちきらないように努力している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は一人ひとりと向き合う事に努め「したい事」「して欲しい事」を聴きだす努力をし実行へつないでいる。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始前は本人との事前面談や家族との相談で把握するようにしている。又、入居後も会話の中から少しずつでも情報を聴き出し、個人を尊重し出来ることやしたいことを支援できるように努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	職員はケアプラン見直し時や日々の生活の中で生活リズムを把握し、理念に基づいて出来ることを大切にし、又、出来ることを見つけ出し、増やしていけるよう努力している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントシートに細かな気づきを記入し、ミーティング時にスタッフ全員で、現況や問題を話し合っている。又、面会時や現況報告時には家族の要望を聴き、本人も含め意見交換を行っている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に一度モニタリングを行い6ヶ月に一度見直しを行っている。又、利用者の状態変化や本人、家族の要望に応じて見直しを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを作成し食事・水分摂取量などの身体状況や外出の状況、医療関係の(受診)状況把握をしている。介護サービス実施記録に日々の気づき・エピソード等を記録している。また職員は確認するようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に応じて通院や送迎等の必要な支援をしている。又、緊急時は家族、医療機関との連携を図り、柔軟に対応できるように努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	災害時等は近隣の学生との協力体制が出来ており、担当分遣隊の指導の下消防訓練にも参加頂いている。又、公民館の利用や地域の方のボランティアを継続的にお願いしている。又、馴染みの民生委員さんに足を運んで頂き散髪(カット)をお願いしている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ボランティアセンターを活用しボランティアのお願いやサマーボランティアの受け入れも行っている。又、オムツ支給助成制度なども活用し家族の負担軽減を図っている。本人、家族の要望にて訪問マッサージの利用をしている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括センターの職員が参加することによって情報交換が出来るようになり、在宅での入居待機者の相談や地域との交流方法についての協力をしている。	○	地域包括センターの異動によって運営推進会議への参加状況に変化がある。積極的に呼びかけを行い関係性の構築を図っていきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医となっており状況に応じて受診や送迎の支援も行っている。又、協力医療機関については職員が代行することが多く結果を家族に報告している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	<p>個々に合わせた現実的な方針を家族・かかりつけ医・全職員で繰り返し検討し、職員の質の向上に努め協力医療機関との連携を強化し出来る限り住み慣れた場所で最期を迎えられるよう情報を共有し支援して行きたい。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>個々に合わせた現実的な方針を家族・医療機関・全職員で共有し状況に応じて繰り返し話す(検討)機会をつくり、支援する環境づくりに努める。職員の質の向上や在宅医療機関との連携の構築を図り、家族や本人の意向が反映できる環境づくりに努める。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者一人ひとりに合わせた言葉づかいをし記録物など個人名は出さずイニシャルで記入している。個人情報など訪問者が目につく所には置かないようにしている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	したい事・して欲しい事ノートを活用し外出や行事・食事の献立・入浴の希望など出来るだけ本人の希望に添い、又、希望を言える雰囲気作りに努めている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・就寝時間や朝食・入浴に関しては自由であり外出の希望時は付き添いその日、その時の本人の気持ちを尊重して個別性のある支援を行っている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人希望により家族の方が髪を染めたり、馴染みの民生委員さんの訪問理容を利用している。本人主体で身だしなみを整えられるようさりげなく支援し、希望があれば買い物へ出掛け自分で衣類や靴を選んで買ったりとおしゃれを楽しめるようにしている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜作りや収穫を一緒に楽しみ、食事の下ごしらえや味つけなど利用者の好みや力量を個々に活かしながら支援に努めている。利用者と職員は同じテーブルを囲んで楽しく食事ができている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	一緒に買い物に出掛けたり、一人ひとり好きな物、嫌いな物を職員全員で把握し状況に合わせて対応できるようにしている。状态的に飲めない方はノンアルコールビールを飲まれ雰囲気を楽しんでもらっている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄の時間やパターンを把握できるように24時間シート表に記録し、又、排泄のサインや行動を見逃さないようにして、排泄の誘導や声かけを行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人のタイミングや希望に合わせていつでもゆっくりと入浴できるように対応している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し生活リズムを整えるよう努めている。又、個別の疲れ具合に合わせて個別にベッド、畳、ソファで休憩を取り入れている。入眠前、落ち着けるようにホットミルクなど飲んで頂いている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	絵を描かれたり、彫刻をしたりと趣味を活かして楽しんでおられる方がいる。又、得意分野で発揮してもらえるよう仕事を頼み感謝の言葉を伝えるようにしている。遠出の外泊(ふるさと帰り)や地域の行事参加等楽しみごとを利用者、家族と相談しながら行っている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談し自分の財布にお金を持っている方もいる。個人の買い物はできるだけ本人に支払いして頂き利用者の希望や力量に合わせて支援を行っている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりの希望にそって買い物、外食、散歩、ドライブ、行楽地に行くなど外出の機会を作っている。花見や納涼船、おはら祭りなど季節感を感じられる行事も取り入れている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	外出行事に取り入れられたり希望に添い個別にも外出できるように支援しており家族にも協力を頂いている。行事の際は事前に家族へ連絡し参加を呼びかけ、なるべく一緒に外出できる機会を作っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも自由にホームの電話は使用でき家族や親族等へ電話をかけたり受けたりできるように支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間などは定めておらず家族や本人の馴染みの人たちが来た時に自然な形で歓迎しゆっくりと居室でお茶を飲んだりしてもらっている。又、家族の方が面会時、留守がないように受付に病院受診日や行事日をカレンダーに記入しカウンターに掲示している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロに向けてのマニュアルに添って職員は意識し、行動している。又、ミーティング等で日々のケアを振り返り確認し合っている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけない自由な暮らしを実践している。利用者が外出しそうな様子を察知したらさりげなく声をかけたり一緒について行く等安全面に配慮している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は常に利用者を見守りやすい位置におり様子を把握している。記録も利用者の身近で行っている。又、一人で彫刻をされる方がおられ定期的に声をかけるようにしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	洗剤等は扉の中やカーテンで目隠しをする等の工夫をしており包丁等は都度、手渡しして使って頂き他は扉の中に片付けるようにしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人ひとりの状態を見て日々のケアの中で確認しあっている。又、ヒヤリハットや事故報告書・対策検討表を作成しており再発防止の為に職員が共有し活用している。		今後、さらに知識を深め専門性を身につけたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	職員に応急手当普及員がおりほとんどの職員が普通救命講習を受講し急変や事故において応急手当や初期対応が出来るようにしている。安全対策マニュアルに添って対処できるように勉強会等で訓練・確認を行っている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災時等は近隣の学生との協力体制が出来ており、消防署の協力の下、避難訓練を入居者・学生・職員と一緒に昼間・夜間想定で年2回実施している。緊急持ち出し簿の作成や非常用の飲料水・備品の確保も出来ている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族には最近の状態をこまめに報告し起こり得るリスクについて説明している。職員も申し送りや日誌等で毎日の状態を把握しリスクについて理解している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタル・食事摂取量・水分摂取量のチェックを行い体調の変化や異変の早期発見に努めている。又、申し送りや申し送り記録・医療関係の記録によって職員が情報を共有できるようにしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が薬の作用等を把握できるようにファイルを作成し変更があった時は申し送りや日誌にて把握している。又、服薬後の状態も確認しており主治医に報告している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	繊維質の多い食材や乳製品を採り入れている。体操や家事仕事等身体を動かす機会を適度に設けているがやや運動量が少ないように思う。排便の状態を把握し下剤の調整等を医師と連携し行っている。	○	体操や運動に参加されない方は身体を動かす量が少ない為、検討していきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	歯科の協力のもと勉強会を利用者も一緒に行い口腔ケアの重要性を理解し食後の口腔ケアを行っている。又、定期的に歯科受診を支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとり食事、水分摂取状況を毎日チェック表に記録し職員が情報を共有している。食事量が少ない方は時間をかけて好きな物をさしあげたりバナナや経腸栄養剤等も活用しながらできる限り食べて頂くように努力している。体重測定やBMIのチェックも行い状態を把握している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症に対するマニュアルに沿って予防・対策に努めている。ミーティングや申し送り時において繰り返しうがい手洗いの励行の声かけを行い、ドアや手すりの消毒も行っている。又、職員・入居者全員インフルエンザの予防接種も行っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒予防の為、外部研修にも職員が参加し他の職員にもミーティング等で伝達を行っている。冷蔵庫や保存庫の点検は頻繁に行っており毎日、買い物へ出掛け新鮮で安全な食材を使用している。又、調理用具や布きん、まな板の消毒も毎日行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関入り口や建物周囲に花や木を植えており、玄関に金魚の水槽を置くなど明るい雰囲気ですっきりとした出入りがしやすい工夫をしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や置物を置いて季節感を感じられるように利用者の方と一緒に飾りを作りリビングに装飾している。又、対面キッチンになっており台所からの匂いを自然に感じる事が出来ている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室やソファ、玄関ホールにて独りで過ごしたり仲の良い利用者同士でくつろげるスペースを作っている。気の合わない方も中にはおられるので意見を伺いながら座席を考慮している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた日用品や位牌、写真、テレビなどを持ち込んでおられる。その方らしく過ごせる空間作りに努めている。利用者が描いた絵や利用者の夫が描いた絵を飾ったり手作りカレンダーを貼ったりしている。		馴染みの持ち物が少ない方がおられるので家族の方と相談し使い慣れた物を持って頂くように努める。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	温度計や湿度計を設置しこまめにチェックしており空気の入れ換えや利用者一人ひとりの状態や反応を見ながら温度調節を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗面台の高さは2段になっておりそれぞれ状態に応じて利用している。台所カウンターの高さや洗濯物干しの高さ、手すりの設置等生活環境のあらゆるところに利用者の方が作業しやすいように工夫している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各居室の入り口に利用者名の入った表札を設置したりトイレ、浴室等目印をつけている。又、それぞれ不安要因をみつけだし工夫する努力を職員一同で行っている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関先には縁台を設置するなど利用者はそれぞれの場所で外の風情を楽しんでいる。又、家庭菜園の手入れや野菜の収穫、草花の手入れなど職員と一緒にしている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

いつも笑顔で入居者と向き合うことを心がけ、出来ない事は協力し合い、したい事やして欲しいことを実現させる。また体調に気を配りながら出来るだけ戸外へ出かけ、レクリエーションを楽しんだり、季節を感じながら、ホームに閉じこもることなく、地域や家族と共に支え合い楽しんで暮らしている。